総経理のための 会計&IT入門

第7回

財務諸表をつくろう

斉藤 孝史
Nac-Myts 深圳事務所所長
東京大学経済学部卒、東大大学院（会計学専攻）修了後、大手IT企業経理部を経て現職。国際会計基準、原価計算等に関する論文多数。

監修：中小田聖一（なかおだせいいち）
NACグループ代表、日本国公認会計士。

さて今回は、会計ソフトからダウンロードしたExcelの試算表データをもとに、日本語の財務諸表をつくるためのExcelテクニックをご紹介いたします。

会計ソフトの財務諸表とは別に、社内用にさまざまな形式で財務データを使った文書を作成する場面がよく見られます。最近では連結パッケージの入力作業などが典型的でしょうか。これをひとつひとつコピー&ペーストしていたのでは手間がかかりますし、ミスが発生する原因ともなります。

「vlookup 関数」とは？

今回ご紹介するのはExcelの「vlookup関数」です。「v」は「垂直方向に」、「lookup」は「（辞書を引くように）調べてくる」という意味です。これを使うとちょうど辞書を調べるようにして、縦に並んだ大量のデータの中から目的のデータを取り出してくることができます。

外国語学習でいえば、辞書を調べて単語帳に記入するイメージです。多くの会社では経理部の社員が一番最初に覚えるExcel関数でもあります。

vlookup関数の基本的な入力は以下のように行ないます。簡単に書きましたが、コツを覚えるまではなかなか難しいものです。

```
=vlookup([辞書の見出し],[辞書の範囲],
[見出しから数えて右に何番目？ ],false)
```

同じExcelファイルの中に2つシートがあって、「試算表」シートのセルC1のデータを「報告書」シートに取り出してくることを考えます（表1、2）。「試算表」が辞書で「報告書」が単語帳ですね。「報告書」のセルB1に数値「100,000」が入りましたか？ ここで「報告書」のセルA1を「1101」から「1111」に変えてみてください。セルB1も「2,000,000」に変わるはずです。

表1：「試算表」シート（辞書データ）

	A	B	C	D
1	1101	現金	100,000	0
2	1111	銀行預金	2,000,000	0

表2：「報告書」シート（単語帳データ）

	A	B
1	1101	=vlookup(A1,試算表!A1:D2,3,false)

絶対参照と相対参照

vlookup関数をコピーして使うときに、思っていたのと違う結果が得られてしまうことがあります。右の例では関数のなかはすべて「相対参照」となっているため、セルが動くと参照するセルも動いてしまうからです。反対に「絶対参照」では参照するセルは動きません。行と列でそれぞれ相対参照と絶対参照を指定することができ、組み合わせは表3のようになります。

これを踏まえて、通常は表4のようなvlookup関数を組むことが多いです。するとこの関数を下にコピーしていっても同様に使うことができます。

vlookup関数をうまく使うとExcelをデータベースのように、データを関連づけて扱うことが可能となり、特に会計の仕事では非常に応用範囲の広いツールです。しっかり基本を押さえて、工夫しながら使ってみてください。

表3：相対参照と絶対参照の組み合わせ

	列の相対参照	列の絶対参照
行の相対参照	A1	$A1
行の絶対参照	A$1	$A$1

表4：参照を考慮した「報告書」シート

	A	B
1	1101	=vlookup($A1,試算表!$A$1:$D$2,3,false)